

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	東京科学大学（東京工業大学）	整理番号	1807
プログラム名称	「物質×情報=複素人材」育成を通じた持続可能社会の創造		
プログラム責任者	関口 秀俊	プログラムコーディネーター	山口 猛央

卓越大学院プログラム委員会における評価

〔総括評価〕

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

〔コメント〕

卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、産業界から人的および財政的支援を受けながら、社会が必要とする博士学生の育成を産業界および海外大学と協創して行う新しい教育プログラムとして、ラボローテーション、プラクティススクール、会員企業制度など様々な取組を行っている。プラクティススクールでは同一企業に約6週間滞在し、企業に技術的ソリューションを与えるもので、相互理解、課題解決能力など博士人材の育成に大きく貢献し、きわめて高い評価を受けている。また、会員企業制度は、財政的支援を得る一方大学から企業へ教育研究サービスを提供するもので、制度の持続性、企業との相互理解、人材育成に大きく寄与している。さらに、外部評価体制の構築と定期的な検証・改善によりPDCAサイクルも回っている。

修了者の成長については、研究成果発表会、海外トップ大学との国際フォーラム、海外・企業メンター制度、未来社会サービス創出ワークショップなど未来の社会課題を設定し、自身の研究や知識を社会に還元している点、また学会受賞数が想定以上となっていることは、高度な学生の研究成果が社会に認められたものとして評価できる。QE審査、修了審査も「複素人材」としての素養と「高度な知のプロフェッショナル」としての資質を重視しており、何より学生の研究KPIが飛躍的に増大し、修了者のさらなる社会的貢献も期待される。

キャリアパスの構築については、修了生45名の進路として大学24%、公的研究機関9%、民間企業が67%と企業への就職の割合が高く、当該教育プログラムにより、高度な専門知識・研究能力のみならず、国際性、独創的な能力、チームのマネジメント能力、コミュニケーション力を向上させたことが伺える。今後は研究人材をグローバルにも多く輩出するため、グローバル研究実践をさらに拡充していただきたい。

大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、すでに学院横断型学際的領域のプログラム（複合系コース）が設置されているが、3つの卓越大学院プログラムそれぞれについても、全学院横断型新複合系コースとして令和6年度から順次稼働し始めている。純粋に教育のために産業界から経済的支援を受けることに成功しており、また産業界での博士学生の価値を向上することに本プログラムが大いに寄与したと評価できる。今後は、「東京科学大学」の枠組の中に複合系コースをどう位置付けていくか検討され、本プログラムの継続について、さらに強化していくことが期待される。